

Oriental Stork



コウノトリ野生復帰を通じて
生物多様性を考える

豊岡市

兵庫県

今年、国連が定める「国際生物多様性年」。名古屋市では生物多様性条約第10回締約国会議(CBD/COP10)も開催され、さまざまな場面で「生物多様性」という言葉を耳にするようになりました。

実はこの分野で、豊岡は世界の注目を集めています。豊岡で行われてきたコウノトリ野生復帰の取組みが、生物多様性保全の好例として脚光を浴びているのです。

コウノトリ野生復帰を通じて、もう一度「生物多様性」について考えてみましょう。

《問合せ》コウノトリ共生課 ☎21-9017

Toyooka

豊岡の自然とそこに暮らす人々の文化が
一度は絶滅したコウノトリの野生復帰を支えています

In TOYOOKA City, Oriental White Storks which once became extinct are re-introduced and supported by the local people BECAUSE of their livelihoods and their culture.



(写真：CBD/COP10で使用了したポスター)

昭和35年 出石川



写真提供:富士光芸社

生物多様性って？

文字どおり生物の命の広がりのこと。生きもの同士は見えない糸でつながっていて、互いに関係し合っています。どの一つが欠けても、すべてのバランスが崩れてしまう。生物多様性は「他人事」ではないのです。

自分以外の無数の命にも目を向けること、それが、生物多様性を理解するスタートです。

なぜ、その保全が叫ばれるようになったの？

人間にとって大問題だと気付いたからです。いつも、どうにもならなくなる直前になって動き出すもの。地球温暖化と同様、生物多様性が損なわれると人類に大きな損失を招く！と。でも、それって、「自分以外の命」というより、結局自分本位の考え方のような気も…。



豊岡の取組みは、特に「生物多様性と経済」の分野で世界に紹介されています

コウノトリ野生復帰の取組みは？



平成17年 コウノトリ自然放鳥

コウノトリ野生復帰の取組みは、生物多様性保全を意識して始められたものではありませぬ。目の前で滅びゆく「種」を救う。つまり、生きものを愛する気持ちの原点でした。野生復帰事業の経済的側面が大きくクローズアップされますが、本当に注目すべきは、ちゃんと生きものの命と向き合っている、その「気持ち」にあると思うのです。

私たちが進むべき道は？

放鳥開始から5年、野生復帰の取組みは、着実に歩みを進めています。でも、進めば進むほど、新たな課題も見えてきます。

「生物多様性」の目線も加え、コウノトリ野生復帰事業を今後どう展開すべきか。5年ぶりの「コウノトリ未来・国際かいぎ」で、多くの方と共に話し合いました。



平成19年 市内にて